

「第4次下関ぶちうま食育プラン（案）」への意見募集結果

★意見募集期間 令和4年12月16日（金）～令和5年1月13日（金）

★意見応募状況 1) 応募者数 2名
2) 意見件数 9件

★意見の要旨とこれに対する市の考え方

意見・提言の要旨		意見・提言に対する市の考え方
第1章 計画の概要		
P 1	<p>< 19行目「市民一丸となって」 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に旧一市四町の特性をそれぞれに表現してはどうか。 	<p>食育を推進していく上で、旧市内・旧四町の垣根なく、市民一人ひとりが食育に取り組むことが必要だと考えます。しかしながら、ご意見のとおり、地域によって特性があるため、今後の取り組みをすすめていく上では、それぞれの地域の特性に応じたアプローチ方法や取り組み内容を実施していきたいと思います。</p>
第3章 第4次下関ぶちうま食育プランの目指す姿		
P 1 4	<p>< 食育の仕組みづくり ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校における給食の場を食育の場として積極的に活用する。 	<p>学校給食は、地域の伝統的な食文化や、食に関わる人々への感謝、食料の生産・流通・消費などを学ぶことができる「生きた教材」とされており、今後の推進においても、学校や保育所等の教育現場での役割は大きいと考えています。</p> <p>そのため、「第3章 5 それぞれの役割」に園・学校における推進として、給食についても記載しております。</p>
P 1 4	<p>< 健全な食生活の実践 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な食生活において過度なダイエットへの是正への取り組みも検討すべし。 	<p>「第3章 8 目標ごとの取組ポイント」において、目標4の取組として、「適正体重を維持する」ことについて記載を追加しました。また、今後の推進においても、啓発等を行ってまいります。</p>

意見・提言の要旨		意見・提言に対する市の考え方
P 2 0	<p><目標項目1：お米を1日2回以上食べる日が週に3日以上ある人を増やす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・米中心の理由が不明。パン食でも良い時代。 <p><目標項目3：魚を週に3日以上食べる人を増やす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚だけでなく、肉食も。要するに良質なたんぱく質の補充。 	<p>日本人の伝統的な食文化である和食文化は、ごはんを主食とし、一汁三菜を基本とした地域の風土を生かしたものであり、地域活性化や食料自給率の向上及び環境への負荷低減に寄与し、持続可能な食に貢献することが期待されるとされています。</p> <p>そのため、お米を中心とした日本型食生活を推進し、海の幸が豊かな下関ならではの食文化を大切にしていきたいと考え、このような目標を設定しています。</p> <p>しかしながら、ご意見をいただいたとおり、多様な食品を満遍なく摂取することは、高齢者の低栄養予防等の観点からも必要とされています。</p> <p>そのため、栄養バランスの良い食生活の推進にあたっては、米や魚に限らず、様々な食品を組み合わせて食べる必要があることを、「第3章 8 目標ごとの取組ポイント」において、記載を追加しました。</p>
P 2 0	<p><目標項目7：食事の時間が楽しいと感じる人を増やす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、食卓時の会話は不要。 	<p>コロナ禍であっても、食事の時間が楽しいと感じられるように、ゆっくりよく噛んで味わって食べることや、食事の時間を大切にすること等、会話以外で楽しむことができるように、「第3章 8 目標ごとの取組ポイント」において、記載しております。</p>
P 2 0	<p><目標項目8：1日1回家族とゆっくり食事をとるこどもを増やす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ずしも父母との時間が合うとは限らない。 	<p>多様な社会の中で、父母との時間があうとは限らない現状を踏まえて、家族の誰か（兄弟・姉妹、祖父母等を含む）と食事をする機会を1日に1回はとって欲しいという意図で目標を設定しています。この意図が伝わりやすくなるように、イラストで示す等、分かりやすいデザインに変更します。</p>

意見・提言の要旨		意見・提言に対する市の考え方
P20	<p><目標項目13：食品を購入する時に下関産、山口県産を意識する大人を増やす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産、県産よりも価格が安い場合は優先させても良い。 	<p>地元の農水産物や加工品等を意識することは、地産地消に繋がり、輸送距離の短縮による環境負荷の低減や、地元産業に関心を高めること、また、新鮮な状態で消費者の手に届けることができるというメリットがあります。</p> <p>一方で、ご意見のとおり、地場産の食材を選ぶことは、価格の面において困難な場合もあります。</p> <p>そのため、食品を選ぶ際には、まずは産地を確認することや、同じ価格であれば地場産の食品を選ぶ等、下関産・山口県産の食材に関心を持っていただけるような取り組み内容についても検討してまいります。</p>
全体		
その他	<p>特にこどもの食育については、体力測定実績などを参考にしたい。</p>	<p>この度の計画書策定においては、市内の小学6年生を対象とした食育アンケートを基に現状の課題を整理し、目標値の設定等を検討しました。</p> <p>ご意見のとおり、今後の取り組みにあたっては、関連する様々なデータ等を参考にし、総合的に食育を推進していくことが必要だと考えます。</p>